

新任教授のご挨拶

琉球大学大学院医学研究科再生医学講座 教授に就任して

琉球大学大学院医学研究科再生医学講座 教授 野口 洋文



琉球大学医学部医学科同窓会の皆様、平素より大変お世話になっております。私は、2014年に琉球大学医学部に新設された再生医学講座の初代教授となりました野口洋文と申します。私は、1996年に岡山大学医学部医学科を卒業後、高知県立中央病院（現高知医療センター）の外科研修医として臨床腎移植に携わりました。その影響で1998年に岡山大学へ帰局した後、移植グループに所属することとなり、当時、新しく立ち上げようとしていた肝細胞移植、膵島移植などの細胞移植研究に従事することとなりました。当時は細胞移植といえば骨髄移植ぐらいしかされていない状況であり、岡山大学内でも新しい研究テーマであったため大変苦労しましたが、その甲斐あっていくつかの論文を発表することができました。その研究内容が評価され、2002年ハーバード大学ジョスリン糖尿病センターに留学することができました。ハーバード大学では臨床膵島移植に携わるとともに膵島再生の研究に従事しておりました。膵島移植といえば2000年にカナダのアルバータ大学から膵島移植によるインスリン離脱7症例がNew England Journal of Medicineに報告されたばかりであり、最先端の医療でありました。ハーバード大学は世界の膵島移植主要9施設のうちの1つに認定され、マルチセンタートライアルの中、膵島移植を実施しておりました。そのような状況の中、膵島移植を経験することができたのは大変幸運であったと思います。

日本でも膵島移植実施への動きが活発化し、京都大学で臨床膵島移植プロジェクトが立ち上がりました。京都大学では、海外で臨床膵島移植の経験のあるメンバーを集めることとなり、幸運なことに2003年にチーム参加のオファーをいただきました。同年10月より京都大学附属病院移植外科所属となり、私以外の海外での膵島移植を経験

した3名の医師とともに臨床膵島移植の準備を行いました。2004年、日本初となる心停止ドナー膵島移植を実施し、2005年、世界初となる生体ドナー膵島移植に成功することができました。2007年までに日本で35回の膵島移植が実施されましたが、そのうち18回の膵島移植を私は経験させていただきました。

その後、名古屋大学医学部の助手、講師を歴任後、2007年、アメリカ・ベイラー大学附属機関であるベイラー研究所にて指導医（Associate Investigator）として臨床膵島移植、膵島再生研究に従事することとなりました。2009年、同研究所の膵島再生部門のDirectorに昇進し、2011年に日本に帰国するまでの4年間で100例以上のヒト膵島分離に携わりました。アメリカで指導医として臨床膵島移植および膵島再生研究に従事させていただいたことは、私にとって大きな財産となっております。

日本に帰国後、京都大学、大阪大学、国立病院機構千葉東病院の臨床膵島移植に携わり、2013年に日本初となる、脳死ドナーからの膵島移植を京都大学で実施することができました。これらの実績・業績を評価していただき、2014年8月に琉球大学再生医学講座の教授に就任することとなりました。現在でも、京都大学、大阪大学、国立病院機構千葉東病院、信州大学の臨床膵島移植に携わるとともに、琉球大学では再生医療の研究をつづけています。

現在、琉球大学ではロート製薬、沖縄県とともに「産学官連携プロジェクト」として再生医療・細胞治療を行うための整備を行っています。2015年3月には「細胞処理センター（セルプロセッシングセンター：CPC）」が完成し、6月には「再生医療研究センター」が完成する予定となっています。私は再生医療研究センター長として、再生医療関連企業との共同研究を推進しております。今後、琉球大学で多くの細胞治療が行えるよう体制を築いていきたいと思っておりますので、同窓会の皆様、ご協力のほどよろしくお願いいたします。